

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
作業療法研究法演習Ⅱ	金子 翔拓	2
作業療法総合セミナーⅠ	大川 浩子	11
作業療法総合セミナーⅡ	金子 翔拓	20
総合臨床実習Ⅰ	金子 翔拓	29
総合臨床実習Ⅱ	白戸 力弥	38

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法演習Ⅱ				ナンバリング	4602
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。(思考・判断・表現)」と特に関係する科目である。また、「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」とも関係する科目である。「作業療法研究法」「作業療法研究法演習Ⅰ」を基礎とし、「作業療法総合セミナーⅠ・Ⅱ」につながる科目である。

授業の概要

作業療法研究の目的は、既に習得した作業療法に関する研究テーマを設定し、各教員の指導のもとに、研究の目的、方法及び対象、データの収集と分析、引用、及び、参考文献の収集、実験・調査結果の考察にまで至る、一連の論文作成過程を通して基本的な研究能力を培うものである。作業療法研究Ⅰでの研究計画にもとづき研究成果のまとめまでを行う。

到達目標

- 1) 研究計画に基づき、適切な方法(倫理的配慮を含む)を用いて、研究を遂行し結果を分析・考察できる。
- 2) 執筆規定に従って研究抄録(A4用紙2枚)を書くことができる。
- 3) 取り組んだ研究の限界を説明できる。
- 4) 研究の成果を発表することができる。
- 5) 作業療法研究発表では真摯な態度で積極的に質疑応答に参加できる。

授業の方法

指導担当教員によるゼミ形式で進める。卒業研究発表会は全体で行い、成果を確認する。

ICT活用

最後のポスター発表のためにパワーポイントまたはGoogleスライドを用いて学生自らがポスターを作成する。
遠隔授業が中心になるときは、オンラインで発表会を行う。
評価には、観点を決めて教員のみでなく学生の相互評価得点も含め、リアルタイムで結果を確認できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミではゼミ教員及び関連教員がフィードバックする。発表会では複数の教員が質疑を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	研究の実施① ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第2回	研究の実施② ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第3回	研究の実施③ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			

第4回	研究の実施④ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第5回	研究の実施⑤ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員			
第6回	結果の解析・考察① ・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			

第7回	結果の解析・考察②・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			
第8回	結果の解析・考察③・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			
第9回	結果の解析・考察④・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員			

第10回	研究抄録の作成① ・執筆規定にあわせて研究抄録を作成する。	担当教員の指導を受けるために、 規程に合わせて抄録を作成する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、 抄録を修正する(90分)
担当教員			
第11回	研究抄録の作成② ・執筆規定にあわせて研究抄録を作成する。	担当教員の指導を受けるために、 規程に合わせて抄録を作成する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、 抄録を修正する(90分)
担当教員			
第12回	発表の準備① ・研究成果について、発表用ポスターの作成を行う。	担当教員の指導を受けるために、 発表用ポスター等を準備する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、 発表用ポスター等を修正する(90分)
担当教員			

第13回	発表の準備② ・発表の練習をする。質疑応答用の想定される質問と回答を考えておく。	卒業研究発表会でのプレゼンテーションを練習する(90分)	卒業研究発表会での質疑応答にむけて、プレゼンテーション方法の修正、質疑応答に対する自己学習を行う(90分)
担当教員			
第14回	卒業研究発表会① ・研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を行う。	会場を設営し、発表用ポスター等をわかりやすく展示する(90分)	質疑応答から、自分の研究に関する限界、不足についてまとめる(90分)
担当教員			
第15回	卒業研究発表 ・研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を行う。他の学生の研究成果を真摯に聴き、質問し理解する。	配布された抄録集を読み込み、関心のあるテーマについて質疑を準備する(90分)	行った質疑応答をもとに、自分たちが携わった以外の研究手法についても理解を深め、国家試験に対応できる思考力を身に着ける(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表会及びゼミにおける遂行状況を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
各指導教員が研究内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
参考文献		

各指導教員が研究内容に合わせて必要な文献を紹介する。

履修条件・留意事項等

自ら積極的に研究に取り組むことが望まれる。また、最終の発表会を欠席した場合は出席回数を満たしても不合格となる場合がある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		作業療法総合セミナー I				ナンバリング	4581
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子、金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						

授業の位置づけ

既習の基礎医学、臨床医学、作業療法専門領域の知識を統合し、卒業後の臨床活動の技能を向上させるための「総まとめ」であり、作業療法を実践するために必要な基礎的知識を身につけるための科目である。そのため、全てのディプロマ・ポリシーと関係する科目である。

授業の概要

最終学年におけるこれまでの基礎作業療法学、作業療法評価学および作業療法治療学の知識・技法を復習し、卒業時の作業療法学科の学生として必要な知識、技法を修得できるよう統合的に学習する。加えて国家試験合格に向けた総合学習としている。

到達目標

- 1.総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの経験をふまえ、実際の作業療法について説明できる。
- 2.すべての領域での知識と技術を総合し、作業療法士の臨床活動を具体的に説明できる。
- 3.これまでの講義内容で得られた知識を再確認し、模擬試験に生かすことができる。

授業の方法

- ・配布する資料を使い講義し、国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。
- ・講義方式の座学とグループによる演習を交える。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

適宜講義の重点内容について課題を出し、講義でフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	精神障害の作業療法 (1) 気分障害・依存症・てんかんの作業療法について理解し、説明できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	内部障害の評価およびアプローチ方法について理解し説明できる	内部障害作業療法について調べておくこと。(30分)	内部障害における具体的に患者支援について復習すること。(15分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	発達障害の作業療法 発達障害領域(脳性麻痺・先天性障害・自閉症スペクトラムなど)への具体的な対応について解説できる。	様々な発達障害領域の疾患について調べておくこと。(30分)	さまざまな発達障害に対する具体的な作業療法評価・治療について復習すること。(15分)
担当教員	金 京室		

第4回	MTDLPと地域包括 MTDLPの背景と構造について理解し説明できる。地域包括に関連する制度について理解し説明できる。	MTDLPの構造と地域包括ケアシステムについて予習すること。(30分)	MTDLPと地域包括、介護保険制度について復習すること。関係のある国家試験過去問題を解くこと。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	精神障害の作業療法 (2) 統合失調症に対する作業療法について理解し、説明できる。また、心理検査に関し理解し、説明できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第6回	中枢神経疾患を含め、作業療法評価における総論について理解し説明できる。	中枢神経疾患の各種の評価について予習すること。(30分)	症状と脳の機能局在との関連について、国家試験過去問題を解きながら確認すること。(15分)
担当教員	大坂 隆介		

第7回	運動器の作業療法 (1) 整形外科領域の障害への具体的な対応を解説できる。	整形外科疾患全般にわたり、その症状や予後について調べること。(30分)	各種の検査手技を復習し、国家試験過去問題で確認すること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	高齢期作業療法(日常生活活動・地域作業療法領域も含む) 高齢者への具体的な対応について解説できる。第1回確認テスト。	高齢期における様々な障害について調べること。(30分)	作業療法における具体的な患者支援について復習すること。(15分)
担当教員	玉 珍		
第9回	精神障害の作業療法 (3)神経症圏・パーソナリティ障害の作業療法について理解し、説明できる。関連する地域での作業療法(支援)について解説できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		

第10回	運動器の作業療法 (2) 作業療法に深くかかわるハンドセラピーについて解説できる。	上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること。(30分)	手の外科的対応と後療法について国家試験過去問題を確認すること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第11回	義肢装具学 主に義手や装具、自助具について深く学び、症例への具体的な対応について解説できる。	離断・切断、四肢欠損などで発生する障害について調べておくこと。(30分)	具体的な作業療法について、国家試験過去問題を解きながらまとめること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	中枢神経障害の作業療法 (3) 日常生活活動への具体的な対応について論じることができる。	具体的なADLに関連するキーワードを調べておくこと。(30分)	各種評価法について国家試験過去問題を調べて確認すること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		

第13回	評価学 運動器系、内部疾患系への具体的な対応について解説できる。	呼吸循環器疾患、代謝性疾患について予習すること。(30分)	作業療法における具体的な評価法について国家試験問題などをもとに復習すること。(15分)
担当教員	大坂 隆介		
第14回	中枢神経系の理解～脳血管障害 中枢神経系について解剖学や生理学的な観点から理解し、脳血管障害と関連付けて説明できる。	中枢神経系の構造と機能について予習すること。(30分)	症候学的内容について復習すること。関係のある国家試験過去問題を解くこと。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	基礎作業学 作業療法の基礎理論を総復習し、具体的・実践的な作業療法への応用について解説できる。第2回確認テスト。	作業療法における様々な理論について予習すること。(30分)	各種理論の作業療法への応用について国家試験問題を通じてまとめること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の確認テストの成績80%、授業の取り組み態度(小テストなど)20%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
なし
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		作業療法総合セミナーⅡ				ナンバリング	4582
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、瀧山 晃弘、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「思考・判断・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。」能力を養うための科目である。作業療法総合セミナーⅠと連続し、国家試験に合格する実力をつける。

授業の概要

作業療法士に必要な基礎医学、臨床医学を学習し、作業療法の専門科目との統合を学ぶ

到達目標

1. 作業療法における基礎医学知識のまとめの学習ができる。
2. 生理学、運動学、基礎医学(内科、整形外科、循環器、呼吸器疾患)を再学習する。
3. 基礎医学を学習することで作業療法の専門科目との統合学習ができる。
4. 最終学年として国家試験に向けて復習および知識の統合を行うことができる。

授業の方法

講義とミニテストを実施し、解説を行う。授業ごとにグループワークを実施し、不明な点を明確にする。

ICT活用

Google formより教員が作成した確認テストを実施し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員が実務経験を有しており、各専門領域の教員が授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト、模擬試験ごとに解説を提示し、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	生理学分野1 ・循環器の構造と機能について理解していることを確認する. ・各内分泌器官から分泌されるホルモン名と、その機能を理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	生理学分野2 ・呼吸器について構造と機能を理解していることを確認する. ・消化器の構造と機能について理解していることを確認する. ・消化酵素の分泌部位とその機能について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	生理学分野3 ・血液の機能について理解していることを確認する. ・血球の種類と機能について理解していることを確認する. ・免疫系の機能について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	大坂 隆介		

第4回	生理学分野4 ・泌尿器の構造と機能について理解していることを確認する. ・代謝について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	大坂 隆介		
第5回	生理学分野5 ・末梢神経の構造と機能について理解していることを確認する. ・自律神経の走行と機能について理解していることを確認する. ・中枢神経の走行と機能について理解していることを確認する	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	大坂 隆介		
第6回	解剖学分野1 ・中枢神経の構造について、画像情報を読み取れることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	大坂 隆介		

第7回	解剖学分野2 ・上肢の骨の名称と細部の構造について理解していることを確認する. ・上肢の筋肉について、起始・停止、神経支配、機能を理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	金子 翔拓		
第8回	解剖学分野3 ・下肢の骨の名称と細部の構造について理解していることを確認する. ・下肢の筋肉について、起始・停止、神経支配、機能を理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	金子 翔拓		
第9回	運動学分野1 ・動作解析の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	金子 翔拓		

第10回	運動学分野2 ・関節および筋肉に関する検査法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	金子 翔拓		
第11回	運動学分野3 ・関節および筋肉に関する検査法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	大坂 隆介		
第12回	生理学分野6 ・末梢神経の構造と機能について理解していることを確認する. ・自律神経の走行と機能について理解していることを確認する. ・中枢神経の走行と機能について理解していることを確認する	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	大坂 隆介		

第13回	検査学分野1 ・神経学的検査方法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	検査学分野2 ・画像診断を正しく行えることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	精神神経学分野 ・精神疾患の症状について正しく理解していることを確認する	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと(20分)	国家試験に向けた知識の統合を行うこと (25分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テストの成績80%、授業の取り組み態度(小テストなど)20%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
なし
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		総合臨床実習 I				ナンバリング	4704
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	8
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「思考・論究・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす」能力を養うための科目である。「見学実習」「評価実習」に関連し、「総合臨床実習Ⅱ」と独立した、仕上げる科目である。「作業療法総合セミナーⅠ・Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

作業療法教育の最終段階として実施されるもので、作業療法実務の総合的な臨床学習を主眼とし、「評価実習」の経験に基づき臨床教育者のクリニカルクラークシップの指導手法を通じて問題点を抽出し、目標をたて治療プログラムを実践する。さらに地域社会での支援者のあり方および支援体制について学び、作業療法対象者の生活実態を総合的に理解することを目的としている。

到達目標

実習施設でCEの指導、管理の下、以下について「見学」「模倣」から段階的に体験し、最終的に「実施」できるようになること。 1. 実習生としての責任と良識のある行動 2. 作業療法部門の機能と役割、管理運営の理解 3. 対象者に対する適切な評価 4. 対象者への適切な治療および援助 5. 対象者の評価、治療、援助の意味やリスクの理解 6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告 7. CEの作業療法過程での思考内容
--

授業の方法

学外の施設でクリニカルクラークシップ(作業療法参加型) 方式による実習を行う。 CEの臨床行動を見学・模倣・実施の順序で実践的に学習する。大学では、事前・事後指導、実習施設への訪問指導を必要時間実施する。自主学習として学生はポートフォリオ形式の実習サブノートを作成する。サマリー及び凝縮ポートフォリオを用いたグループディスカッションを実施する。

ICT活用

Google formを活用して、事例に対する考え方や評価など、適宜学内から発信し、学外実習における自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓、白戸力弥、金谷匡紘、金京室、大坂隆介:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、臨床実習の授業を行う。
大川浩子:病院や施設などの精神科領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、臨床実習の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

サマリーは学内で教員が1回以上指導します。発表等は教員がその場でコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	事前指導(35時間) 各種事務手続きと領域ごとの事前指導による知識・技能の学習及び国試模試及びAdvanced-OSCEによる技能・態度到達度確認。	国家試験模試及びAdvanced-OSCEにむけて学習し、必要な事務手続きを行う。	実習施設への事前電話をする。 また、事前指導を踏まえ、把握された自己の課題について取り組む。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第2回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第3回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		

第4回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第5回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第6回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		

第7回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第8回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第9回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育者の指導、監視の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。	必要な情報を集め、整理し、実習サブノートを作成する。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		

第10回	学内における事後指導(35時間) 教員の指導の下、臨床実習の経験をサマリーシート及び凝縮ポートフォリオをまとめる。実習で学んだ経験を発表し、グループディスカッションなどを実施する。	教員の指導を受け、サマリーシートのまとめる。事後セミナーで発表・討論にむけて準備をする。	総合臨床実習Ⅱにむけて、事後セミナーで学習したことをまとめ、不足していることを自己学習で深める。
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第11回	なし	なし	なし
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		

第13回	なし	なし	なし
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導(A-OSCE、取り組み態度や出席率など)・実習中の遂行評価・事後指導の評価から総合的に判断。
その他	0	特になし
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		

1年生～3年生までに使用した専門書を参考にします

履修条件・留意事項等

履修条件:①4年次への進級要件を満たしている、②事前指導に原則全て出席、③A-OSCEに合格

③のA-OSCEに合格していない場合、臨床実習の配置を取り消し、単位認定できないことがある

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		総合臨床実習Ⅱ				ナンバリング	4705
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	8
担当教員	白戸 力弥、金 京室						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。また、根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)こととも関係する。

授業の概要

3年次までに学習した作業療法の知識、技術を用い、臨床教育者のもとに、作業療法の実践を経験する。基本的には身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域を経験するが、一部老年期障害領域の実習が行われることもある。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。

到達目標

以下の目標について実習施設で臨床クラークシップ(診療参加型臨床実習)による「見学」「模倣」から段階的に体験し、最終的に「実施」できるようになること。

1. 作業療法実習生として責任と良識のある行動をする
2. 臨床実習施設における作業療法部門の機能と役割、管理運営について理解する
3. 臨床教育者の指導、監視の下、対象者に適切な評価を見学、模倣、実施する
4. 臨床教育者の指導、監視の下、対象者に適切な治療および援助を見学、模倣、実施する
5. 対象者に行う評価、治療、援助に関する意味やリスクを理解する
6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告を行う

授業の方法

学内での事前・事後指導と臨床実習施設で臨床教育者の指導、監視の下に8週間の実習を行う。なお、本実習は北海道文教大学臨床実習指導要領に従って、臨床クラークシップの手法により実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員が作業療法士としての実務経験を有しており、実習事前および実習事後の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事後指導として、サマリー発表を行い、グループディスカッションを行う。また教員からのフィードバックを実施する。さらに追加で必要な学生には個別に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	総合臨床実習Ⅱオリエンテーションと事前指導 実習の目的と実施目標を理解し、必要な事務手続きを行う。 各専門領域における面接・観察・評価の特性と作業療法プログラム立案の方法・手段を確認する。対象者の全体像をまとめ、治療方針に適したモデルを選択し、作業療法を立案・計画を行う作業療法実践の流れを確認する。	事前指導の日程を把握し、必ず出席すること。	オリエンテーションと事前指導についてよく復習すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第2回	実習施設にて(全8週間) 実習施設におけるリハビリテーション部門の概要と他職種間連携を理解し一員として参加する経験をする。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床教育者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第3回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、対象者に関連した情報を適切に収集し、作業療法評価と作業療法計画立案する過程を「見学」、「模倣」後、最終的に「実施」する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床教育者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		

第4回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、作業療法計画を対象者の状況に合わせて「見学」、「模倣」、「実施」し、その実施過程をディリーノートに記録し、思考過程を学習する。実施におけるリスクを理解し、最終的に「実施」できるようになる。大学教員による各施設への巡回指導・アドバイスを合わせ必要に応じて適切に改善する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床教育者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第5回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、必要に応じて対象者の実施状況を再評価、作業療法計画の変更・修正について「見学」、「模倣」、「実施」する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床教育者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第6回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、実習内容や必要な情報を、専門用語を使用して記録し報告する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床教育者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		

第7回	実習施設にて臨床教育者の指導の下、作業療法部門の管理・運営を理解し業務遂行を支援する。	翌日の実習に備え、自主的に実施すること。	臨床教育者の指示に従い、さらに自主的に実施すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第8回	事後指導 事例サマリー発表、討論、情報交換会などを実施する。	学内教員の指示に従い、実習サマリーの作成、発表の準備を行うこと。	サマリー発表で討論した内容について復習すること。
担当教員	白戸 力弥、金 京室		
第9回	なし		
担当教員			

第10回	なし		
担当教員			
第11回	なし		
担当教員			
第12回	なし		
担当教員			

第13回	なし		
担当教員			
第14回	なし		
担当教員			
第15回	なし		
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導、実習の遂行状況、実習教育者からの総評用紙、事後指導を含めて総合的に判断する。
その他	0	特になし。
教科書		
指定しない		
参考文献		

北海道文教大学 2025年度臨床実習指導要領
各専門基礎科目、各専門科目教科書と参考書

履修条件・留意事項等

総合臨床実習Ⅰの成績に関わらず履修することができる。但し、Advanced-OSCEに不合格の場合は履修できない。特段の理由なしに、休むことはできない。

備考欄